

令和２年度 学校経営計画表

１ 学校の現況

学校番号	8		学校名	県立日立北高等学校				課程		全日制		学校長名		鈴木 仁			
教頭名	黒崎 かおる											事務（室）長名		添田 裕由			
教職員数	教諭	43	養護教諭	1	常勤講師	3	非常勤講師	5	実習教諭, 実習講師, 実習助手		1	事務職員	3	技術職員等	4	計	63
生徒数	小学科			1 年		2 年		3 年		4 年		合計			合計クラス数		
				男	女	男	女	男	女	男	女	男	女				
	普通科			125	115	128	112	126	112			379	339	18			

２ 目指す学校像

- (1) 全ての生徒が「学ぶ」喜びを実感し、自己実現を果たせるような「学び舎」をつくる。
- (2) 校訓「誠実・克己・創造」の実践に努め、豊かな創造性や進取の精神に満ちた校風を継承し、発展させる。
- (3) 学習活動と特別活動等との両立を推進し、生徒一人ひとりに自らの未来を切り拓く知性・能力を身につけさせる。
- (4) 生徒一人ひとりを大切に教育を実践し、生徒・保護者・地域住民に信頼される「地域に開かれた学校」づくりを推進する。

３ 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項 目	現状分析	課題
学習指導	生徒の学習態度は概ね意欲的であるが、学習への取組が消極的な生徒への、学ぶ力を喚起する指導法が求められる。	生徒が自ら課題を見だし、学習を継続する姿勢を育成するにはどのような指導が必要か。
進路指導	「守破離」に基づくキャリア教育を展開し、国公立大学現役合格者数は66名であった。一人ひとりの進路希望に応じた、個の力を伸ばす指導方法の研究が必要である。	未来を見据えた適切な職業観・勤労観を育成する指導をどうするか。
生徒指導	素直で真面目な生活態度の生徒がほとんどであるが、登下校のマナーやSNS等の使用法が乱れた生徒が一部見受けられる。	学校内だけでなく、あらゆる場面において自律した生活態度を育てるにはどうするか。
特別活動等	国公立大学合格者に占める部活動加入者の割合が上昇（65%→71%）した。生徒会主体で学校行事の企画・運営が行われている。	生徒一人ひとりの個性や能力を伸ばさせ、学習と部活動・生徒会活動との両立が達成できる環境整備をしていく。
働き方改革	進路指導や部活動指導の充実のため、超過勤務が恒常的になっている。	各部・各学年間で円滑な連携と効果的な指導を図り、業務の縮減に取り組む必要がある。

4 中期的目標

- 1 生徒の進路希望に応じた学力向上を推進し、地域から信頼される学校として教育活動を展開する。
- 2 特別活動や部活動の活性化を通して粘り強い精神力や頑健な体力を養うとともに、自主性や社会性、奉仕の精神に富む人間を育てる。
- 3 端正な服装や丁寧な言葉遣いなど、道徳観や規範意識を備えた生徒の育成に努める。
- 4 生徒と教職員が〈建学の精神〉「継続は力なり」を共有し、相互に尊重し合う豊かな人間関係を構築する。
- 5 ホームページや「スクールガイド」を充実させ、中学校・地域との交流の機会を広げ、双方向の広報活動を展開する。
- 6 「茨城県県立学校の教育職員の業務量の適切な管理に関する規則」に基づき働き方改革を促進する。

5 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
(1) 生徒の進路希望に応じた学力向上の推進	1 習熟度別授業などの個に応じた指導を、柔軟かつ多様に導入し、基礎的な知識・技能の習得を図る。 2 互見授業等を通して、思考力・判断力・表現力を育成する授業研究、指導力向上に努める。 3 生徒の進路希望に応じた適切な課題を活用し、自ら学び続ける力を育成する。
(2) 入りたい大学への積極的な挑戦	4 個別面談を充実させ、生徒の自己理解の深化と自己受容を促し、学びに向かう力を涵養する。 5 様々な進路行事の目的を明確化し、効果的な実践と振り返りを行うことで生徒の学習意欲を喚起し、適切な勤労観・職業観を育成する。 6 進路情報の収集と的確な提供に努め、生徒一人ひとりの進路に複数の教員がサポートする協力体制を構築する。 7 課外指導においては、習熟度別講座等を取り入れて効果的な指導に努める。
(3) 「豊かな心」の育成	8 環境教育やボランティア活動を推進し、他者への思いやりを育み、いじめには組織全体で迅速に対応する。 9 相手の立場になって考え、行動できる人間性を育み、SNS等使用時の自己管理能力を高める。 10 国際理解教育を推進し、グローバル社会で活躍できる人材育成を目指す。 11 コンプライアンスを遵守するとともに、体罰・暴言によらない指導を実践する。 12 特別な配慮を要する生徒への共通理解を図り、合理的配慮や適切な支援について研修を深める。
(4) 学習活動と部活動・特別活動の両立	13 部活動の一層の活性化を図り、生徒の自己肯定感を育てる。 14 特別活動(ホームルーム活動・生徒会活動・学校行事)を充実させ、キャリアパスポートを活用し規律や協働性を養う。
(5) 健康と安全への配慮	15 健康教育の推進や環境整備を通して、生徒及び教職員の健康の維持・増進を図る。 16 生徒相談の充実に努め、スクールカウンセラーと連携し生命の大切さを理解させる。 17 学校行事の精選、業務の適正化・効率化を検討し、教員の働き方改革を促進する。
(6) 情報公開の積極化	18 学校評議員会・PTA・同窓会等との連携を強化し、情報公開に努める。 19 学校説明会(夏・秋)の内容を充実させ、中学校・学習塾等への訪問を積極的に実施し、生徒数確保に努める。 20 スクールガイドの内容を刷新し、ホームページの更新頻度を高め、広報体制を充実させる。 21 「学年だより」「学級通信」「進路情報」「保健だより」等を通して、必要な情報を生徒・保護者に提供する。
(7) 今後のビジョンの具体化と、ビジョンに沿った教育活動の展開	22 本校の将来像を見据え、グランドデザインに基づき教育活動を展開する。 23 地域の中の学校として、新しい普通科の在り方について検討を進める。